

# 空き家活用が定住増の“鍵” 登録にご協力ください

近年、増加傾向にある空き家。人口減少に歯止めをかけ地域活性化を進めるには、空き家の活用が重要な“鍵”になっています。綾部市では、定住施策に重点的に取り組み、昨年度は19世帯42人の定住を支援しました。今年4月には「住みたくなるまち定住促進条例」を施行。新たな補助金制度も設け、今後一層の定住者増を目指します。

↑ 560世帯超が定住を希望

4月末時点で、市の窓口に登録している定住希望者は565世帯。このうち多くの都市住民が古民家での生活を希望しています。これに対し、空き家の登録件数は常時20棟程度。綾部に空き家を残している人にも▽たまに帰る▽いつか住みたい▽家具や荷物が置いてある▽どんな人が住むのか不安▽などの事情があり、需要に対し提供できる物件が少ないことが課題になっています。

↑ オーナーの負担軽減に5万円

空き家に新たな住民を迎えることは、地域活性化だけでなく防災・防犯の面からも効果が見込まれます。また、空き家所有者（オーナー）にとっては▽売却の場合、家の管理が不要になる▽草刈りなど、敷地の管理も入居者が実施▽自治会費、光熱費など家の維持にかかっていた費用減が期待できる—などのメリットも。

↑ 支援住宅制度も実施

定住希望者には、賃貸住宅での生活を望んでいる人が多くいます。しかし、農村地域では賃貸で登録される物件は多くはありません。そこで市は、オーナーから10年間空き家を借り受けてトイレの水洗化などの改修工事を行い、賃貸物件として貸し出す定住支



空き家の情報は、定住サポートのホームページで公開

援住宅制度も行っています。現在、定住支援住宅は6棟。今後2年間で中上林、西八田物部、志賀郷地区に1棟ずつ整備する予定です。

↑ 住宅改修費の3分の2補助

本年度は新たな取り組みとして「空き家活用定住支援事業費補助金」を創設。空き家を購入か賃借した人が改修工事を行う場合に補助金を交付します。

対象は、申請者が20歳以上55歳未満で▽市の窓口に登録



空き家見学ツアーは都市住民に好評

市ではこのほか、住宅取得などに必要な資金の融資あっせんや空き家見学ツアーなどを行い「住んでよかった」「住みたくなる」まちづくりを進めています。さらなる空き家の掘り起こしにも取り組みますので、ご協力をお願いします。詳しくは、定住促進課 ☎内線331へお問い合わせください。

5月24日オープン

グンゼスクエア

あやべ特産館

新たな観光の拠点に



都市交流拠点施設として市が青野町で整備を進めていた「あやべ特産館」が5月24日、いよいよオープン。隣接のグンゼ博物館、綾部バラ園とともに「あやべグンゼスクエア」として一体的に運営します。

↑ 都市交流と情報発信の要

平成26年度、舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道がともに全線開通予定。これにより綾部への交通アクセスが向上し、ヒトやモノの動きが活性化することが予想されます。綾部市ではこれを好機ととらえ、都市住民との交流と地域の情報発信の拠点として「あやべ特産館」を新設。平成25年度に着工し、1億5500万円をかけて整備しまし



↑ 大型バス用駐車場も整備

今回、新たに大型バスが停車できる駐車場も整備。綾部インターチェンジまで約5分という立地のため、高速道路を利用した観光客の誘致や、

春のバラまつり 同日開幕



あやべ特産館の整備に合わせ、綾部バラ園内を真砂土舗装。ベビーカーや車いすの人も見学しやすくなりました。

期間／5月24日(土)～6月15日(日)  
時間／午前9時～午後5時  
場所／綾部バラ園(青野町)  
休園日／火曜日  
☎観光協会 ☎(42)9550  
綾部商工会議所 ☎(42)1920

○あやべ特産館○

開館時間／午前9時～午後5時  
休館日／火曜日(祝日の場合は翌日)  
☎(43)0811

市街地観光の拠点としても期待されます。グンゼスクエア周辺は、府の景観資産に登録された建物など、美しい街並みを形成。京都府北部の観光活性化に向けた「海の京都事業」でも、グンゼスクエアから大本までの街並みを観光資源として生かす計画です。